

たんぽぽ

2020.1

TANPOPO
MEITOKU GIJUKU
NEWS LETTER

真夏を
エシジョイ!



新男子寮「川薪寮」完成へ!

(16面)



中3生
オーストラリア短期留学

(8/9面)



第3回
学長からのメッセージ
(麗澤大学・徳永澄憲学長)



高文祭で鑑賞者の目を引いた
市原百さん(5年特進I)の作品
「舐めさせまい!」
(高知市「かるぼーと」で)

(7面)

キャプテンとして最後の公式戦となった
プロ男子ツアー「カシオワールドオープン」に
臨んだ岡田晃平選手(6年C組)



中学3年生が オーストラリアへ 短期留学



中学3年18人が11月30日、オーストラリアへ出発、12月20までの間、英語研修と様々なアクティビティーを満喫しました。

東海岸のリゾート地ゴールドコーストでホームステイしながら語学学校「イマジン」に通つて語学力アップに努め、現地の姉妹校訪問で交流を深め合いました。



中3生が修学旅行



中学3年生が11月20日から2泊3日の予定で、京都・大阪方面へ修学旅行に出かけました。京都では紅葉真っ盛りの嵐山や金閣寺や伏見稻荷大社などの名刹をはじめ多くの寺社を散策し、京友禅体验ではトートバッグを作りました。

最終日は、ユニバーサルジャパン(USJ)で過ごし、楽しい思い出をたくさん作ってきました。

中学1・2年が 秋季遠足



秋季遠足が11月22日、実施されました。中学1・2年は中土佐町久で、「かつおタタキ体験」を楽しみました。

第54回 英語劇公演



国際演劇クラブ主催の第54回英語劇『王女と木こり』が11月15日、高知市春野・ピアステージで開催され、約300人の観衆を楽しませました。英語劇公演はこれまで四半世紀にわたりギャビン・バントック先生が脚本・演出を担当して来ましたが、バトンを引き継いだ英語教諭・浦田和喜先生初の学外公演となりました。

『王女と木こり』は、「クマのプーさん」作家で知られるイギリス児童文学者A.A.ミルンが児童劇として創作した喜劇で、高校2年を主体とした新メンバーが熱演を繰り広げ、会場から感動の温かい拍手が贈られました。

プールでカヌー体験



カヌー部の立ち上げを目的とした「カヌー体験」が9月24日、生徒16人が参加して本校プールで開催されました。須崎市地域おこし協力隊のカヌー経験者ら指導者4人が来校。生徒たちは、持ち込んでくれた初心者用カヌーや競技用カヌーに交互に試乗体験しました。

生徒たちは「初めてカヌーに乗ったが楽しい。クラブが出来たら是非、参加したい」と大喜びでした。

現在、「カヌー部」が来年度にスタートできるよう、練習場所の確保や指導者人選などの調整を進めています。

第46回 体育祭 開催!



第46回 体育祭が9月7日、本校グラウンドで開催されました。前日発表の降水確率90%の予報は大外れで、開会式には青空も。一時、降雨に見舞われましたが、体育祭プログラム、「秋祭り」、打ち上げ花火まで全日程を終了し、キャンパスは終日、生徒や保護者らの歓声に包まれました。



防災避難訓練と 防災教室



今後30年以内の発生確率80%といわれる「南海トラフ巨大地震」を想定した防災避難訓練が11月7日、本校で行われ、グラウンドへの避難の後、須崎消防署の監修のもと、煙や初期消火・救急搬送それぞれの体験に臨み、備えの点検をしました。竜キャンパスでは土佐消防署の指導を受けて11月29日に行われました。

また、竜キャンパスでは9月25日に日赤高知県支部からの講師が「南海地震にそなえよう」をテーマに講演し、生徒たちは最近発生した熊本地震、東日本大震災での被害や避難状況などから得た教訓を学びました。



全盲の竹内先生を講師に 「いのちのレッスン」



「命の大切さ」をテーマに全国で講演活動を続けている全盲の竹内昌彦先生(74歳)が、11月7日に来校し、「私の歩んだ道～見えないから見えたもの」をテーマに「いのちのレッスン」授業の講師を務めてくれました。

竹内先生は小学2年生の時に網膜剥離で失明。岡山県立岡山盲学校の教頭を務めた後、退職し、現在はモンゴルやネパールなどアジア途上国の目の不自由な子どもたちに手術費用を支援する慈善活動に取り組んでいます。

竹内先生は自分の生き立ちなどに触れた後、特に「いじめ問題」に言及。「死ぬほど辛いと思ったら我慢せずに仲間を巻き込みなさい。逃げても構わないですよ」「死にたいと思っても、嫌なことはずっと続かないし、悲しみも一生続く訳ではありません。死なずに生きることが何より大事」と訴えました。

トピックス 明徳

その1

MEITOKU
GIJUKU

第49回 ライオンズクラブ表彰



スポーツで優秀な成績を修めた高知県内の中学生を称える「第49回ライオンズスポーツ賞」授賞式が12月3日、高知市の三翠園で行われ、受賞した4団体と個人表彰4人の代表者ら7人が参加しました。

《団体》

- ・中学野球部(四国中学総体優勝)
- ・男子ソフトテニス部(同男子団体優勝)
- ・男子・女子卓球部(各団体優勝/四国中学選抜各団体優勝/全国中学体育大会各3位)
- 《個人》(敬称略)
- ・青井さくら(卓球/東京選手権女子ジュニア・カデット3位)
- ・白山亞美(卓球/全国中学体育大会シングルス準優勝など)
- ・上澤依央(卓球/全日本選手権カデット部14歳以下ダブルス準優勝)
- ・上澤茉央(同)

国体少年ソフトで優勝 『明徳コンビ』大活躍

明徳生が主力を占める高知県少年ソフトボールチームが10月1日の茨城国体決勝戦で長崎を4-3で降して優勝しました。

チームにはソフトボール部の宮本光輝(6年C)・片岡竜羽(同)・根来悟一(6年特I)3選手が参加。一回戦で福島を6-0で降して波に乗り、準々決勝戦で愛知を3-0で、準決勝戦で岡山を4-2で破る快進撃で、この日の決勝戦に臨みました。

全試合を通じて、特に4番宮本・5番根来の両選手は、全得点に絡む大活躍で、高知優勝を牽引した『明徳コンビ』が大会関係者の注目を集めました。



和太鼓部が定期演奏会

師走恒例の和太鼓部「定期演奏会」が12月15日、須崎市立市民文化会館で開かれ、力強い響きとリズムで約300人の市民らを魅了しました。

今年12回目となる演奏会のテーマは「太鼓衆魅鼓 咲かば花」。生徒たちは日頃の練習の成果を思う存分に発揮し、ステージ一杯に躍動しての熱演に、盛んな拍手が送されました。

10月入学式



留学生の「10月入学式」が10月18日に挙行され、6ヶ国(地域)からの47人の新入生が明徳に仲間入りしました。

新入生の出身国(地域)は、米国・中国・インドネシア・ベトナム・モンゴル・台湾。新入生を代表して中国出身のイエンドゥアさんが「今は希望と期待で胸がいっぱい。悔いのない学校生活を送り、しっかりした行動がとれるように自分自身を向上させていきます」と元気いっぱいに挨拶し、激励の拍手に包まれました。

世界津波サミットに参加

タイの姉妹校バグパイプチームと合同演奏会



短期留学で来校中のタイ姉妹校ワチラウット高校(22人)の「バグパイプ」演奏メンバーと和太鼓・マーチングバンド両部の「合同演奏会」が11月5日、本校体育館で開かれました。

夕食後に竜キャンパス「養徳寮」の生徒たちも集結。バグパイプは気鳴楽器でスコットランドのスカート状の民族衣装「キルト」を身にまとったワチラウット生が入場すると会場は興奮状態に。バグパイプの生演奏は初めての生徒が大半で、テンポの良い軽快な旋律に、身体を揺らし手拍子でリズムを取りながら聴き入っていました。

また、オーストラリアの姉妹校PLCとTAS両校の生徒9人も10月14日~12月11日まで短期留学で来校し、午前中は主に日本語の授業を受け、放課後はクラブ活動にも参加。在校中、茶道・書道など日本文化体験やお遍路、温泉、タコ焼づくりなども楽しみました。さらにモンゴル・UUDAMモンゴル教育学校の高校生8人も12月17~20日に来校し、午前は日本語の授業を受け、午後は明徳生と交流したり高知観光を楽しみました。



世界津波サミットに参加



「世界津波の日 2019高校生サミットin北海道」が9月10日、札幌市の道立総合センターで開催され、5年特進Iの市原百さん(竜キャンパス防災委員長)と山崎希空さん(同副委員長)が他4校の生徒たちとともに、高知県を代表して参加しました。

同サミットは地震や津波の災害を最小化する国土強靭化を担う将来のリーダーを育成する目的で2016年から毎年開かれており、今回が4回目。今回は世界44ヶ国から約270人、国内から約170人が参加し、防災・減災へ向けた意見交換を通じて、津波の脅威と対策について考察を深め合いました。

また、10月27日には「高知県高校生津波サミット」が高知市の県立ふくし交流プラザで、県内52校と県外2校から約130人が参加して開かれました。

明徳からは市原さんと山崎さん、5年特Iカンミンウくん、イスンジェくんが参加。留学生も迷うことなく全員が避難誘導できるように、「警報」「想定」などの防災用語を英語・中国語・韓国語などに翻訳してまとめた『防災単語帳』制作について発表し、注目を集めました。

須崎警察署の『1日署長』に

全国地域安全運動期間の10月11日、西田龍生くん(6年B)と松下芽生さん(6年特I)が須崎警察署の『1日署長』に委嘱されました。

早速、パトカーに乗車して、「マルナカ須崎店」へ出動。地域安全推進員ら約30人と一緒に、同店周辺でゴミ拾いをしたり、詐欺防止を呼び掛けるチラシや反射材を買い物客らに配り、防犯意識の高揚を呼びかけました。



高校野球部 今春センバツへ前進!

高知新聞／11月5日付朝刊



「第72回秋季四国地区高校野球大会」決勝戦が11月3日、徳島県・鳴門オロカミンC球場で行われ、尽誠学園(香川1位)と明徳義塾(高知3位)が対戦。明徳が8-1で快勝し、2年ぶり10度目の優勝を果たしました。

2002年に1県3校代表制になってから3位校の優勝は初めての快挙。明徳は同大会の全4試合を7点差以上の圧勝で、四国制覇を果たしました。

この結果、明徳は2年ぶり19回目のセンバツ出場へ向けて、大きく前進しました。

卓球部が中国へ修学旅行



卓球部に所属する5・6年生16人が参加して11月18日から5日間の日程で、中国江蘇省・張家港市の姉妹校「崇人中学」を訪問し、体験授業と家庭訪問を内容とした修学旅行を楽しみました。

卓球の親善試合のほか、市内各地の名所を散歩したり、餃子・ワンタンづくりなども経験し、姉妹校生徒たちとの交流を通じて、友情を育んで来ました。



家族愛の作文コンクールで、 2年3組 西山 韶くんが入選

高知県モラロジー協議会主催の「第11回家族愛の作文コンクール」の入選作が決まり、10月14日に表彰式が行われました。

小中学生を対象とした作文コンクールで、県内137校から5084編の応募があり、西山くんの作品「曾祖父の楽しみ」が入選30編に選ばれました。

95歳の曾祖父はゴルフと朝夕の散歩を楽しみ、高齢者の運転が社会問題化している中、「100歳まで車の運転をすることが夢」だそうです。

西山くんは曾祖父の「何かをする時は、やらされているのではなく、やらしてもらっていると思ってやりなさい」という言葉を、自分自身の「心の道標としている」と結び、曾祖父への愛情と尊敬の気持ちを素直に書き上げ、高く評価されました。



高大連携協定を締結

神戸医療福祉大学（兵庫県神崎郡福崎町）と日本経済大学（福岡県太宰府市）との「高大連携協定締結式」が9月12日、本校研修会館で行われ今後、教職員間の研修交流事業を進めていくことなどを話し合いました。

両大学は同じ学校法人「都築学園」グループで、神戸医療福祉大学（旧近畿医療福祉大）には社会福祉学部、日本経済大学には経済学部と経営学部がそれぞれ設置されており、明徳生の進学へ向けてのサポート体制についても意見交換されました。

また、学校法人「順正学園」(岡山市)と12月9日、壽本校長が同学園を訪ね、加計美也子理事長・総長と高大連携協定を交わしました。同学園は吉備国際大学(岡山県高梁市)、順正高等看護福祉専門学校(同)、九州保健福祉大学(宮崎県延岡市)、九州保健福祉大学総合医療専門学校(宮崎市)の2大学2専門学校を経営しており、この中で吉備国際大学は社会科学部・アニメーション文化学部・保健医療福祉科学部・心理学部・外国語学部・地域創成農学部の6学部と大学院が整備された総合大学です。



明徳生が競争率15倍を突破! 高知県警 TV CMに 明徳生が出演



澤央典くん（6年英）、トレ斯顿・エリーさん（同）が出演する高知県警の警察募集のテレビCMが8月に放映され、大きな話題となりました。警察がオンラインを通じて出演者を選んで動画を制作し、テレビ放映するのは全国で初めての試みです。

警は県内高校生を対象に今年6月に出演者を公募し、応募のあった94人に面
カマリハーサルなどを通じて選考を重ね、最終的に15倍以上の競争率を
いた明徳生2人を含む6人を選ばせた。

画面は約30秒で、出演生徒は各校の制服で登場。「僕たちはたぶん何者でもないたぶん、何にでもなれる」とのメッセージのあと、6人が警察官の制服をまとうと羽織り、「この街を守る力になることも」という言葉で締めくられて

。『限級で登場した川澤くんは「映像を通して、自分で限界を決めずに挑戦する」が何をばらんと思って話していました。



目指すものは、

「世界と地域に貢献する品格ある Global Leader」

AI（人工知能）に代表される第4次産業革命、メガ自由貿易協定（FTA）の出現、米中貿易摩擦、少子高齢社会など、時代のキーワードを少し並べただけでも、世界が混沌としている様子がうかがえます。先が見えない時代。しかし“不透明な時”だからこそ、新たなリーダーが求められているのです。

これからリーダーに必要なグローバル力は、座学だけでは身につきません。キャンパスを飛び出し、世界や地域と直に触れ合い、お互いに切磋琢磨する中で身につくものです。本学では学生の“やる気に火をつける仕掛け”が豊富に用意され、学生の伸びる力を信じる教職員が成長をサポートします。これらは、ほぼ80余年前に創立者・廣池千九郎が残した先駆的な取り組みや組織風土を受け継いだものであり、今なお、ここに脈々と流れています。

緑に囲まれた麗澤大学で、世界の仲間と学び、あなたの夢を実現しましょう。

そして「品格あるグローバルリーダー」として羽ばたいてください。

messages

第3回 学長からのメッセージ

明徳生の皆さんへ

国際学部新設



外国語学部と経済学部 でも新たな学び



2020年度、世界の人々が協働し共生する時代を見据え、外国語学部、経済学部に加え、新たに国際学部が誕生します。「多様性つなぐ！」をコンセプトに、世界の事象を学び、英語を武器に新たな知の在り方、新たな学びのスタイルを探求します。

外国語学部では、中国語専攻が「中国語・グローバルコミュニケーション専攻」にリニューアル！英語とビジネスも学び、新しいビジネスの世界を切り開くセンスを磨きます。

経済学部では、経済活動としての観光を多面的に学び、地域活性の方法を考える観光・地域創生専攻、ITの技術をAIに発展させてビジネスと会計ファイナンスを学ぶAI・ビジネス専攻を新設します。

箱根駅伝出場まで
あと一歩！
躍進する陸上競技部



小規模にこだわる。国際性にこだわる。

麗澤大学
Reitaku University

2019年度は、約26秒差で惜しくも本選出場を逃しましたが、その差は年々縮まっています。麗澤大学チームでの箱根駅伝出場を目指し、日々努力しています。

実践力を身につける多彩なPBL



キャンパスを飛び出し、社会や世界と直に触れ合う機会を豊富に用意。地元自治体や企業とのコラボレーション企画や海外での環境問題解決プロジェクトまで、実社会から学び、学びを社会に還元する機会に満ちています。

麗澤大学 学長 德永 澄憲

新しく加わった、 麗澤大学の国際性



多彩な留学プログラムや世界各国からの外国人留学生と一緒に授業に加え、パートナーとなって日常生活も共にする「Conversation Partnership」を開始。

学生寮グローバル・ドミトリリーには、それぞれの言語・文化に特化した専門寮「チャイハウス」が加わり、共同生活を通して日常的に国際感覚を養うことができます。

国際開発の政策アドバイザーとして活躍する徳永学長

筑波大学名誉教授、日本地域学会副会長、ペンシルベニア大学・レディング大学等の客員研究員併任。
1996年5月から1997年11月、インドネシア国家経済開発庁（BAPPENAS）経済顧問（JICA長期専門家）を務めるとともに、ブラジルやパラグアイ等でJICA短期専門家として勤務した。
1999年に日本地域学会論文賞、2009年・2015年・2018年に同学会著作賞。
2011年に日本環境共生学会著述賞を受賞。

美術部

ART CLUB

たんぽぽギャラリー

Tanpopo Gallery

県展 洋画の部:入選 高校美術展:佳作



「惠風」
前田知香 (5年特進I)

高校美術展:特別賞



「静・鏡」
コウテンチ (6年特進II)



「生き物といふか、未知との遭遇でした」
阪口実来 (5年中國語)

ドラマから生き物が出てきたら
自撮りを止めてあいさつしよう



「やがて消えてゆくこの肉身なら」
タイチンジ (4年日本語)



「天使の楽章」
リュウトウ (5年D組)



「Summerのsapphire」
オウジタツ (5年D組)



「パンダの声」
リュウトウ (5年D組)

県展
グラフィックデザインの部:入選



「朝のコラージュ」
市原 百 (5年特進I)

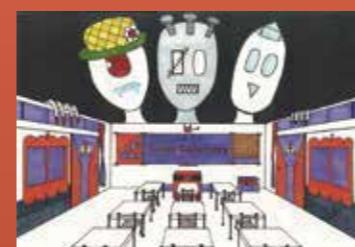
県展
グラフィックデザインの部:入選



「White_Moonshine」
コウゲツブン (5年D組)



「休みと音楽」
カテキ 嘉迪 (4年日本語I)



「Halloweenの教室」
吉澤真心 (4年特進I)

たんぽぽギャラリー

Tanpopo Gallery

高校生が芸術作品の力量を競う「第42回 高知県高等学校総合文化祭」(高文祭)と
「第73回高知県美術展覧会」(県展)が10月~11月に高知市文化プラザ「かるぽーと」
を会場に開かれました。明徳生は多くの部門に積極的に出品し「斬新なアイデアと丁寧
な仕上げ」が高い評価を受け、入選をはじめ多くの賞を受賞しました。
(敬称略)



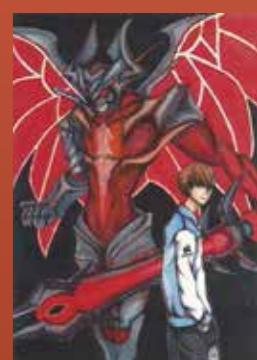
「無題」
シカノ 張 (5年D組)



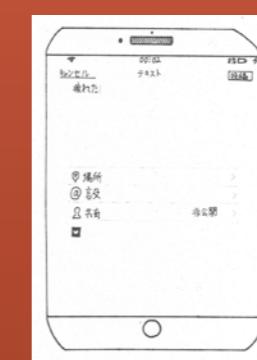
「魚と猫」
文静 張 (5年特進II)



「異種」
嘉怡 張 (6年日本語)



「The Shy」
文政 朱 (5年D組)



「日常」
ゴウゲン 曹 (5年特進II)



「秋冬」
文政 朱 (4年日本語)



「カリカリさんの神」
嘉儀 王 (4年日本語)

文化部

VISUAL ART CLUB



「あなたと光」



「先輩と後輩」



「一人の瞬間」



「蝶の墓」

高知県総合文化祭 「奨励賞」



「shadow and light」 朱芷榮 (6年D組)

趙偉珍 (6年英語)



「14歳」



「ピエロ」



「村脱出」

マンガ部

MANGA CLUB



「異種」
嘉怡 張 (6年日本語)



「The Shy」
文政 朱 (5年D組)



「カリカリさんの神」
嘉儀 王 (4年日本語)

わたしの イチオシ!

第29回



あの日、陽だまりの縁側で、 母は笑ってさよならと言った

(著:水瀬さら/アルファパリス)

1年1組/武井優佳さん(埼玉県出身)

自由奔放な母に嫌気が差し、田舎を飛び出してひとり暮らしをする綾乃。ある日突然、母がやってきました。母との数年ぶりの生活が始まり、綾乃の望まない形で賑やかになっていきます。しかし、綾乃は母からある宣告を受けます。

「私、もうすぐ死ぬらしい」と…。病気だとわかつても、前向きに精一杯生きた母が「生きれば生きるほど、死ぬのが怖くなってくる」と言った言葉に心が揺さぶられました。

この本を読んで、今まで大切に育ててくれた母に感謝しました。心温まる笑いあり、涙ありの一冊なのでぜひ読んで下さい。



あと少し、もう少し

(著:瀬尾まいこ/新潮社)

1年1組/近藤理央さん(愛知県出身)

頼りない先生の元で、寄せ集めのメンバーが最後の駅伝に挑む中学生の物語です。「走るのは好きか?」そう聞かれたらノー。でも「駅伝は好きか?」と聞かれると、答えはイエス。一人ひとりさまざまな想いを抱えながら応援の声に背中を押され、すべての力を振り絞った。

この本を読むとチームのため、みんなのために100%の力を出し、あきらめないことのすばらしさを感じられます。「あと少し、もう少し」チームが一つの想い、そう「ONE TEAM」となる感動ありの一冊です。特にスポーツをやっている方にお薦めしたいです。



夜行

(著:森見 登美彦/小学館文庫)

6年特進I/パク ヒョンゴンくん(韓国出身)

たいていの小説やマンガなどの創作物は、何らかの目的を持って物語を開拓していく。村上春樹の小説「1Q84」は2人の主人公が元の世界に戻ることを目的とし、マンガの「ONE PIECE」は海賊王になることを目的としている。

しかし一方で、そのような暗黙的なルールをこれ見よがしに破ってくれるイレギュラー的な作品も存在している。「夜行」もまたそうである。これと言ったはっきりした目的を明確に示さない。10年前、6人の仲間が主人公の提案に応じ、鞍馬の火祭を見物に京都へと集う。それだけだ。語られた各々の、分かりそうで分からぬタブ物語は、つかめそうでつかめない雨上がりの朝霧のようで、終着駅に停まっている無人列車内の淋しさを感じた。

一つの物語を読み終えるたびに深まってくる心の闇をながめていると、この底の見えない闇が晴れる日が果たして来るのだろうかと不安になってしまう。

すると、この作品はそんな私に向けてこう語るのだ、「たった一度きりの朝」と。

この言葉の意味が気になる人は、この本を是非読んで欲しい。「夜行」は私が竜キャンパスの図書館に卒業記念として寄贈します。では、良い旅を。



癒し屋キリコの約束

(著:森沢明夫/幻冬舎文庫)

4年英語/葉手尻実咲さん(徳島県出身)

昭和堂という名の純喫茶。

昭和の歌謡曲ばかり流れていて、レジ横にはなぜか神棚が祀つてあります。これらは主人公「霧子」の裏稼業「癒し屋」と密接に関係しています。次々に訪れる依頼者たち。

毎回霧子の行動に心配し、展開に驚きますが、ちゃんと霧子流の落としをつける解決力が凄いです!

私達読者も、読んでいるうちに眉を八の字にして考え込んでしまうミステリー要素もあります。次々に迫りくる恐怖が緊迫している状況はすごくハラハラして読み応えのある小説です。



死神の精度

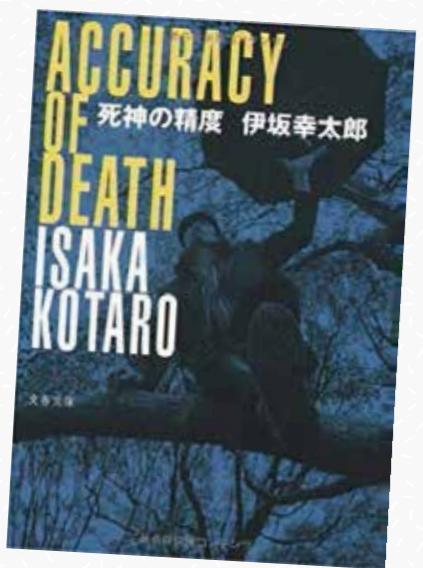
(著:伊坂幸太郎/文藝春秋)

数学教諭(本校中学・高校)/千葉勇成先生(東京都出身)

生死操ることができる死神・千葉が様々な人と7日間を過ごし、登場人物それぞれの人生にまつわる謎に踏み込んでいきます。そして8日目にその人が生きるか、死ぬかを決めてしまう、というお話です。

タイトルに「死神」と入っていますが、暗いお話ではありません。これは伊坂幸太郎の作品に共通していることですが、軽快で、たくさんのユーモアと思いがけない伏線がちりばめられています。登場人物も個性的で、読めば読むほど愛着が湧いてきます。そして、主人公が私と同じ「千葉」なのもこの作品が好きな理由の一つです。

私が伊坂幸太郎に出会ったのは中3の頃、父に映画にもなった「重力ピエロ」という作品を教えてもらったのがきっかけです。それからは伊坂幸太郎の小説を片っ端から読み、「死神の精度」に出会いました。皆さんもこれをきっかけに伊坂幸太郎にハマって欲しいと思います。



生徒編

せき ぐかん
石 俣 衍 さん
(6年特進I／中国出身)



「今」を生きる

「結果より、プロセスを楽しむことだ」。よく聞くフレーズだが、結果が出ると、プロセスの存在感がガーンと下がる。最後に得た結果が、期待通りでないことは、私は何回も体験してきた。

私は小さい時から運動が苦手で、季節によっては喘息が酷くなるので、激しい運動は敬遠してきた。しかし、中学校を卒業するためには、マラソン単位取得が必要だった。800㍍3分50秒の壁。優しい先生は私に「頑張らなくても合格点をあげる」と言った。

でも、私は拒んだ。その時の私は「みんなが出来るなら私も出来るはずだ」との信念を抱え、テストまでの何ヶ月間ずっと走り続け、スピードもついてきた。

いよいよ本番だ。「3分47秒。合格」との結果に、私に一瞬複雑な気持ちが湧いた。達成感でなく、むしろ失望だ。「同じ合格なら楽な道を選べば良かった」と。

しかし、私は何ヵ月もの辛いプロセスを糧にして、健康に今を生きている。当初5分のタイムを1分以上早めた自信とともに。

努力はエネルギーと同じで、消えることはない。ただ別の報いに変えて、私たちの人生を支えていると、私はこう捉える。

「運命論」なんて信じない。私たちは「今」を生きている。そして誰も知らない「明日」を切り開く。受験生たち、頑張ろう。

第32回 リレーエッセー

「人のせいにしないこと」「素直であること」

5年前、私が参加したバスケ指導者養成セミナーで、講師が話したキーワードだ。試合・大学受験・就職試験…何かにチャレンジして、結果が失敗に終わった時、私たちは言い訳をして、誰かのせいにしてしまうことがよくあるのではないか。

か。なら、果たして失敗の真の原因は何なのか――。
環境やコンディション、経験不足など原因と思われるものは、山ほど思いつくだろう。しかし、安直に「人のせいにする」者は、発展の芽を自ら摘んでしまう逃げ行为であり、これから続く数々の試練の真っ向勝負に、必ず負けてしまう人間だと、私は思う。

試合に勝った時は生徒を堂々と褒める、負けた時はキッパリと私の責任だと自己を顧みる…これをようやく当たり前のように自然に思い、生徒に言えるようになったのは、冒頭の言葉を私なりに昇華できたからだ。

ピンチをチャンスに変えるのは他人ではなく自分なのだ。様々なピンチを抱えて悶々と悩む生徒を、私は心から愛おしく思う。試練を受け止め、踏ん張り、何かを得て欲しい。ひと回りもふた回りもきっと成長していく生徒たちの背中を、私は優しく見守っていく覚悟だ。

なかむら てつひろ
中村哲大先生
(寮務・バスケットボール部監督/
高知県出身)



人のせいに
する
先生編

授業 日本語

対象 日本語コース(本校)

担当 楠瀬康仁先生
(高知県出身)



第5回

たんぽぽ 教室 紙上参観

日本人生徒のみなさん、日本語の動詞の活用を勉強したとき、「未然・連用・終止・連体…」という言葉を習ったと思います。用語を覚えるのは面倒くさいな、と思った人もいるかもしれません。

ちなみに日本語教育では、動詞の形を「ナイ形」「マス形」「辞書形」などと呼んだり、「形容動詞」を「ナ形容詞」と言ったりします。(静かな場所ってなるからね)

言語を勉強する主たる目的は、その言語を使ってコミュニケーションをとることでしょう。しかし一方で、文法用語の理解が学習の手助けになることもあると思います。

『点と線』と言えば有名な推理小説ですが、私が学んだ某言語には「点過去」と「線過去」という用語がありました。「過去時制」の文法を理解するのに大変分かりやすかったです。

言葉が上手に使えるようになることは大切なことです、ちょっと文法用語にも関心を持ってみませんか。それが「言語学」など新たな学問の世界に興味をもつききっかけになればいいな、と「接続法過去ラ形」などと聞くと興奮してしまう私は思うわけです(笑)。



私が学んだ“某”言語です。分かります?



竜キャンパス「保健室」

担当 養護教諭
伊藤瑞穂 先生(千葉県出身)



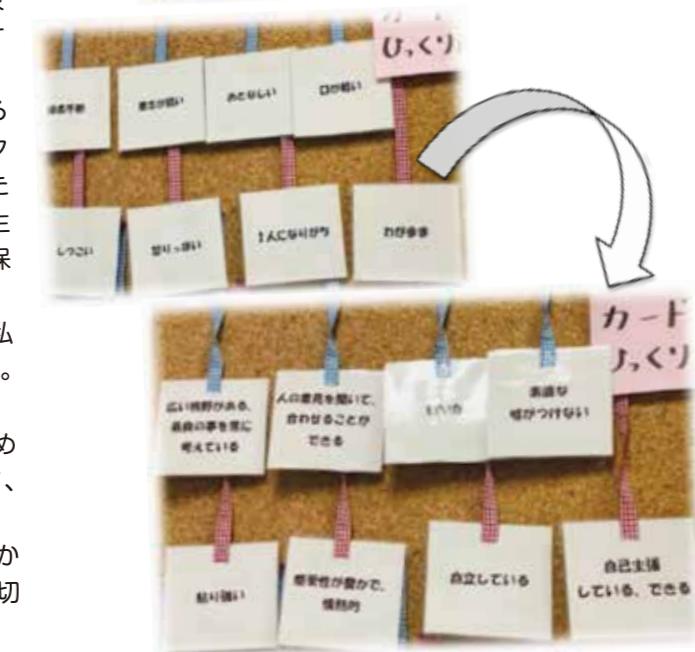
保健室では「いってらっしゃい」と「おかえりなさい」の挨拶で、来室した生徒を送り迎えします。
「いってらっしゃい」と言うとき、大切な人を元気づけ、「おかえりなさい」と言うとき、大切な人が戻ってきた喜びを表現していると、ある本を読んで学びました。素敵な言葉ですね。

わずか10分の休み時間に保健室へ来るまでの道中、いろいろありながら、ここに来た感じ。思春期、寮生活、毎日のクラブ活動、大人に脱皮する前段階の葛藤時期。立ち止まつたり、うすくまつたりしている生徒もたくさんいます。そんな生徒へどうか無事にと「いってらっしゃい」の言葉をかけて、保健室から送り出します。

ある日、保健室に来た女子生徒が、「保健室は学校での私の家。先生はお母さん」と言ってクッションを抱えました。「お母さんかあ」と2人で笑う瞬間にふと幸せを感じます。

1人ひとり個性こそ違うものの、輝く原石をたくさん秘めているなど感じています。良いとこ探しのお手伝いとして、保健室にはこんなものを掲示しています。

短所の裏には長所が隠れています。自分自身を知るきっかけになると思います。心と体の健康のために、自分を大切に。無理をしないで。今日も元気にいってらっしゃい!



新男子寮「川薪寮」完成へ!



5階の多目的ホール



4人部屋で、全室シャワー付トイレを完備



エレベーターも2基整備



5階の標高は約60m。青々とした横浪半島の景色がくっきり



ひろ せ たん そう
広瀬淡窓

「川薪寮」の「川薪」とは?

江戸時代を代表する儒学者で漢詩人でもあった豊後国(現在の大分県)日田出身の廣瀬淡窓(1782~1856)の漢詩が出典です。私塾「桂林荘」に全国からやって来た塾生を前に、廣瀬淡窓が詠んだ漢詩「桂林荘雜詠」2首目の七言絶句の最終行2文字が直接の典拠です。

この漢詩の白文(原文)は右記の通りです。

休道他郷多苦辛
同袍有友自相親
柴扉暁出霜如雪
君汲川流我拾薪

《現代語訳(口語訳)》

言るのはやめなさい、他郷での勉学は苦しく辛いと。

ここには1枚の綿入れ着物を貸し合う仲間がいて、皆仲良くなるのだから。

明け方に扉から外へ出てみると、霜が雪のように真っ白に降りている。

君は川の水を汲んで来なさい、私は薪を拾ってこよう。



今年も沢山の行事や出来事がありました。最近ではスポーツの試合をインターネット配信してくれているので、離れた場所でもリアルタイムで観戦することができます。夏のインターハイ、全国優勝した国体ソフトボール、野球の神宮大会もインターネットで応援しました。来年も沢山の活躍を期待し、応援できることを楽しみにしています。

(HIROKO)

編集後記

♣新男子寮「川薪寮」。なかなか良いネーミングと思いませんか。その典拠と由来をこのページで詳述しました。「川薪」はラグビー[One for all, All for one]の気概を彷彿とさせます。仲間への思いやり精神をこの新寮で育んで欲しいと思います。リレーエッセーには、冬休み返上で受験勉強に明け暮れる石さんが投稿してくれました。全教職員が認める不動の優等生の1人です。明徳全ての受験生の大願成就を祈っています。

(編集長)

